



海の大魚市場物語

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

① 【日南市油津の海に姿を現した大きな鯨】
むかしむかし、そのむかし、毎年夏になると、
日南（にちなん）の油津（あぶらつ）の海に姿（すがた）をあらわす、
1頭（いっとう）の大きなくじらがおりました。



② 【油津の浜辺にイワシが寄って上がるシーン】

この大きなくじらがやって来ると、
浜辺（はまべ）に捕（と）りきれないほどのイワシを追い込んでくれるので、
油津（あぶらつ）はとても栄（さか）えていました。



③ [海から鯨が、お伊勢参りをしているシーン]

この大きなくじらは、毎年海から、お伊勢参まいとろうし(いせまい)りつづを続けているくじらでした。

5年 日高ゆきほ



④ [鯨組に鉾を打たれる おおくじら]

ところが、33回目のお伊勢参(おいせまい)りのとき、
大鯨は運悪(うんわる)く、紀州熊野灘(きしゅう くまのなだ)の沖で、
熊野(くまの)の鯨組(くじらぐみ)に追い込まれ、
鉾(もり)に突(つ)き刺(さ)されてしまったのです。

大井泰河

48



⑤ 【鯨鮫が1本刺さったまま逃げる 大鯨】

「ここで、ここで死んでなるものか！」

とつぶやきながら、鮫（もり）が体^{からだ}に刺（さ）さったまま、
大鯨（おおくじら）は歯（は）をくいしばって熊野灘（くまのなだ）から
油津（あぶらつ）めがけて泳（およ）ぎました。

か
ま
し
た
る
な



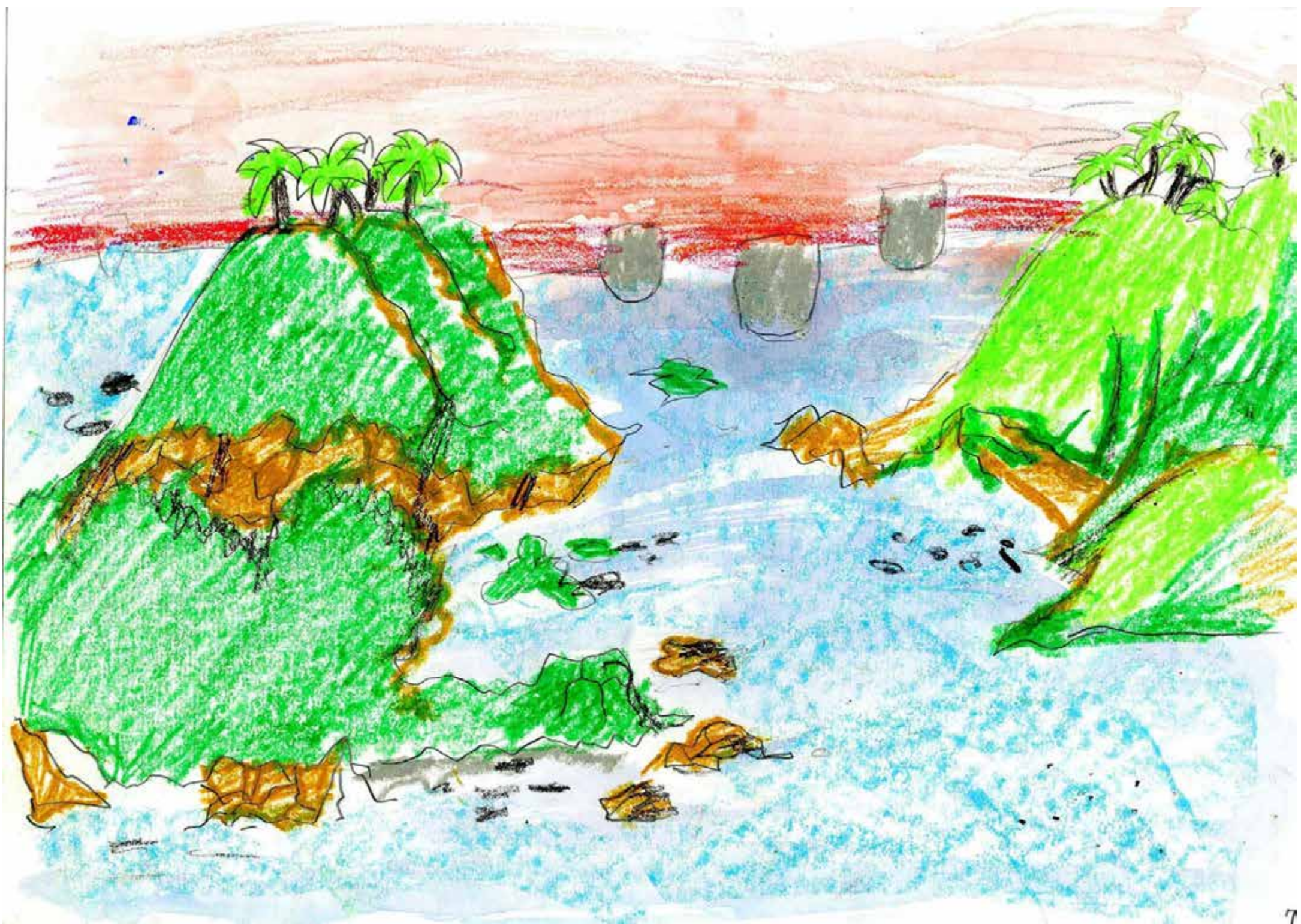
5 か
y
w

⑥ [油津の浜から村人たちが、心配そうに海を眺めているシーン]
大鯨 (おおくじら) が傷 (きず) ついたことなど、まったく知らない村人 (むらびと)
たちです。
海を見ながら、姿 (すがた) を見せない大鯨 (おおくじら) のことを心配 (しんぱい) しておりました。



す
す
た
に
み
あ

- ① [嵐で漁に出られない油津の漁船団]
いつもの夏^{なつ}とち^{とち}がうこの年は、嵐（あらし）が何日（なんにち）も何日も^{なにいち っつ}続き、
油津の村人たちは漁（りょう）ができず、
「このままじゃ、うえじにせんばねー」



というように、食べるものにもこまっておりました。

⑧ [油津の浜辺の近くで浮いたり沈んだりする大鯨]

ある日のこと。

村人たちは、浜^{ひらべ}辺に鮎^{あや}（もり）が突^つき刺^ささったまま打^うち寄せられて
いる大きな鯨^{くじら}を見つけました。

それは、力^{ちから}をふりしぼり油津^{あぶらづ}にたどり着^ついた、息^{いき}もたえだえの大鯨^{くじら}で
した。



⑨ [村人がみまもるなか息をひきとる大鯨
大鯨は村人たちが見守(みまも)るなか、
泳(およ)ぎついた油津の浜辺(はまべ)で、
とうとう息絶(いきた)えてしまいました。




竹井晃

- ⑩ [油津の人たちが、相談しているシーン]
そこで村人たちは、この鯨くじらをどうするか？話し合はないをあしました。
「どうするのが、いいかのー」
「どうするのが、いいかのー」
「海の恵あまみとしていただいてはどうかじゃ！」
「そうじゃなあー、それがいいのー」
ということで、この鯨くじらをありがたくいただこうではないかということになりました。



Handwritten text at the bottom center, possibly a signature or name, which is mostly illegible due to blurring and fading.



⑪ [村人が鯨の尾羽に綱をかけ、浜辺に引き上げるシーン]

そこで、村人たちは、鯨の尾に綱を結び付け、引き上げることにしました。

「おい、いいか！引きあげるぞー！！」

「ヨイサー、オイサー」

村人たちは、大鯨を力を合わせて浜辺（はまべ）へ引きあげました。



⑫

[大鯨を解体していくところ]

ひきあげられた大鯨は、村人によって解体されました。

「こ、これは！！ どうしたことだー！」

「赤ちゃんクジラじゃないか！」

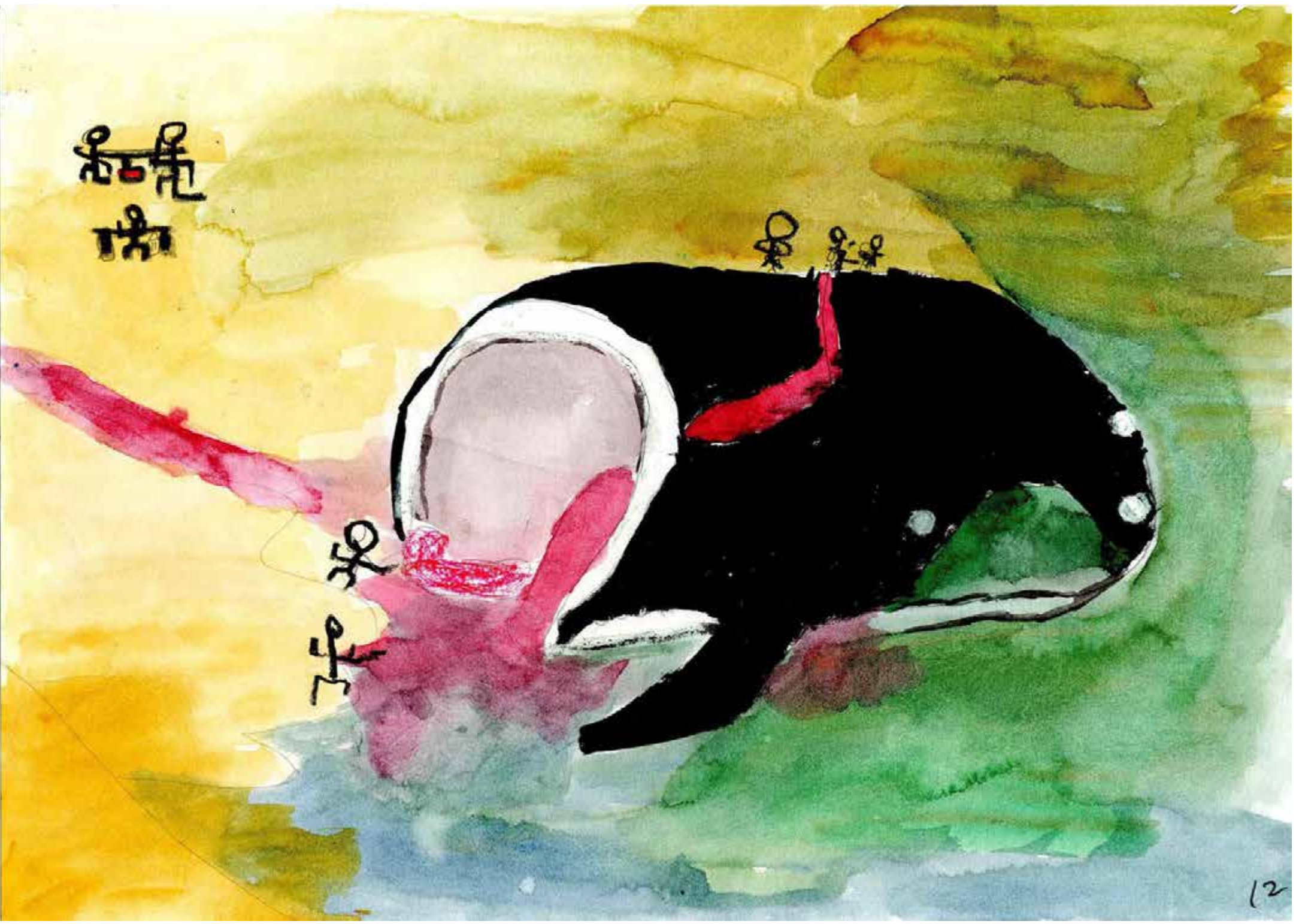
この大鯨は、お腹（なか）に赤ちゃんクジラをやどしていたのです。

まよっかいけ

श्री
श्री

श्री श्री

श्री श्री



⑬

〔解体した大鯨を村人が分けるシーン〕

まず、鯨は海の恵みとして、油津の人たちに分けあたえました。

また、その話しを聞いて集まった近くの村人たちにも分けてあげました。

13



13

⑭ [村人たちが、石碑をたてるシーン]

村人たちは、親鯨(おやくじら)の目玉(めだま)と赤ちゃんクジラを葬(ほうむ)り、
供養(くよう)をしました。

そして、「鯨魂碑(げいこんひ)」を建てることになりました。

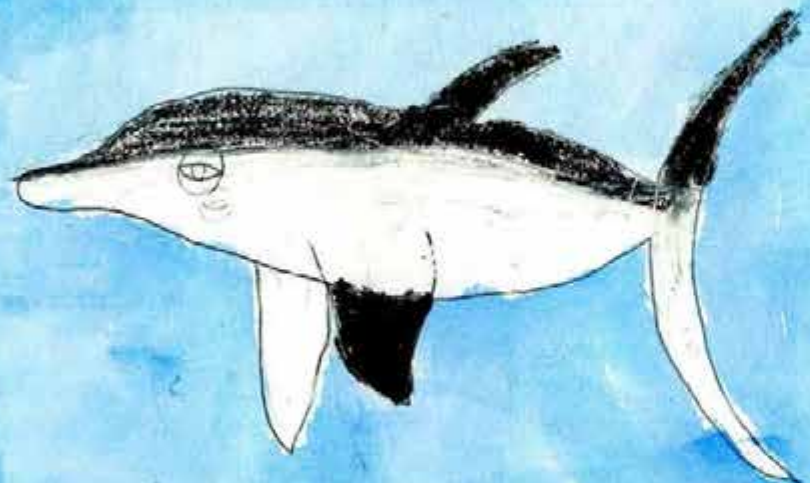
それ以来(いらい)、油津(あぶらづ)は豊漁(ほうりょう)が**つづき**栄(さか)えました。

古さわ

本間小学校

2年1組

41



⑮ 【村人たちが「鯨魂碑」の前で供養をしている所】

それから村人たちは、

^{くじら}鯨の霊（れい）を漁業（ぎょぎょう）の神様（かみさま）としてあおぐようになり、

^{すいじ}毎年5月の節句（せっく）には、

近くの村からよせられた餅米（もちごめ）をひき、餅（もち）をこしらえて、
「^{くじら}鯨魂碑」に供えてきました。

いつの日からかこの餅（もち）は、「鯨餅（くじらもち）」と^よ呼ぶようになりました。

大



石の島

⑩ [現在の石碑の遠景]
おしまい

(これが、「油津の大鯨^{あぶらづ} (おおくじら) と鯨餅^{はひし} (くじらもち)」にまつわるお話です。)

註*お伊勢参り：三重県の伊勢神宮にお参りすること。

* 鯨組：鯨を捕る会社

* 注連縄 (しめなわ)：神祭具で神聖な場所の区画に張られる。



あぶらつ おおくじらものがたり
「油津の大鯨物語」

鳥巢京一

【前書】 【宮崎県日南市にある鯨の碑】

日南市油津（にちなんし・あぶらつ）に伝わる、大鯨（おおくじら）のむかし話（ばなし）です。

油津の村には波戸（はと）の鼻（はな）に「人柱（とぼしら）さま」とよぶ聖地（せいち）があり、鯨（くじら）の霊（れい）を祀（まつ）る鯨魂碑（げいこんひ）があります。油津の漁師（りょうし）たちは、毎年（まいとし）5月の節句（せつきう）には、くじらの形（かたち）をした餅（もち）を供え、豊漁（ほうりょう）を祈願（きがん）してきました。

油津（あぶらつ）の人（ひと）たちは、この餅（もち）を「鯨餅（くじらもち）」と呼んでいました。

有月 藤 陽 幸 利